



サイエンスアゴラ2022募集要項

20220531ver.
サイエンスアゴラ事務局

オンライン開催

10/20 [木] >>> **22** [土]

セッション10 企画程度

オンライン開催のため特定会場への搬入なし

前夜祭 および 実地開催(テレコムセンタービル)

11/1 [火] : **4** [金] >>> **6** [日]

セッション1企画

オンライン前夜祭

ブース90企画・セッション35企画

搬入11/3 [祝・木]、搬出11/6 [日]18時

会場:テレコムセンタービル他(お台場 青海)

10月、11月ともに 募集開始6/1[水] 応募締切6/30[木]

採択通知は7月下旬～8月上旬を予定。新型コロナウイルスの影響により全体をオンライン開催に切り替えの可能性あり(8月下旬決定)

テーマ まぜて、こえて、つくりだそう

私たちの環境は、あわただしく変化しています。当たり前だったことが普通でなくなる場面は数多くあります。あらゆる物事はつながっていて、遠い国の問題が私たちの生活に直接的な影響を与えることもあります。発展する科学技術だけで人々の不便を乗り越えられる時期は過ぎ、今は、斬新なアイデアが価値を生む時代と言われます。誰もが暮らしやすい未来に必要なのは、自分だけでは気づけなかった、多様な問題意識や考え方です。いろんな立場の人の声には、これからの社会をつくるヒントが潜んでいます。未来の科学技術は、どんなものだと思いますか？ 誰を助けるものでしょうか？ 実現するには、どんな問題乗り越えないといけないのでしょうか？ 今年のサイエンスアゴラは、あなたの考えを聞くところから始めたい。集まった人々の知恵をまぜて、今ある枠組みや思い込みをこえて、よりよい未来をつくることに挑戦します。

主催 科学技術振興機構(JST)



募集要項目次

サイエンスアゴラとは	3	企画実施後の交流について.....	17
これまでの活動	4	企画のジャンルについて	18
参加者の特性など	5	オピニオンボード(意見募集ボード).....	19
応募条件	6	レポートボード(意見募集ボード).....	20
昨年からの継続・改善点	7	レポート提出(セッション、ブース共通).....	21
出展の形式	8	出展までの流れ	22
各日の企画数(予定)	9	審査の観点	23
オンライン開催(セッション)	10	サイエンスアゴラ2022推進委員会	24
前夜祭	11	応募の手順	25
実地開催:全体像.....	12	企画タイトル・出展者名の表記ルール....	26
実地開催:セッション基本仕様	13	応募フォームへの記入	27
実地開催:ブース基本仕様	14	連携企画、誘致企画など	32
実地開催:3～5階基本レイアウト	15	参考情報	34
実地開催:11/5・6タイムテーブル.....	16	協賛企業の募集について.....	38

分かりにくい点はJSTサイエンスアゴラ事務局(agora@jst.go.jp)までお問い合わせください。後日、SNSや公式ウェブサイトにも主な質問と回答をまとめて掲載します。

サイエンスアゴラとは

※アゴラ(agora)は古代ギリシャ語で「広場」の意味

サイエンスアゴラは、「科学」と「社会」の関係をより深める目的で、様々な立場の人たち(小中高生も含む市民、科学者・専門家、メディア、産業界、政策決定者など)が情報共有・対話を行うオープンフォーラムです。

毎年11月に開催され、比較的専門的なことが議論されるセッションから、対話型の展示やワークショップなど、多様な企画で構成されます。

科学技術の楽しさを伝えて興味関心を喚起することに加え、科学技術をめぐる様々な課題や今後の社会の未来像についても考えられる、多様な人々が集う場を目指しています。



これまでの活動

2006年から開催しているサイエンスアゴラは、様々な関係者の試行錯誤によって発展してきました。発足当初は科学コミュニケーションの理念を社会に認知してもらうための活動が主でしたが、時代と共にコンセプトが変わり、**2022年は「共創」「総合知」により未来を考える場と位置づけています。**

サイエンスアゴラは
これからも
進化し続けます

草創期 (2006年～2009年)

- サイエンスが社会と交流し対話する広場
- サイエンスを担う多様な人々への対話を促す広場
- 日本中のサイエンスコミュニケーションーター達が集い議論する広場

第一次変革期 (2010年～2013年)

- 各地のサイエンスコミュニケーション活動の環をつなぐ場となり、多様なセクターが自律的に活動するネットワークへと発展
- 「伝える」とともに「つくる」へ広げる
- 多様な科学コミュニケーション活動の「見本市」として全国各地域の科学コミュニケーションを活性化

第二次変革期 (2014年～)

- 日本最大級の科学イベント
- あらゆる人に開かれた科学と社会をつなぐ広場
- 科学とともにある社会をつくろうと「行動している人」が集まり、お互いの活動に関心を持ち、仲間を募り、それぞれの活動を発展させていく場
- 社会とともにある科学、科学とともにある社会

サイエンスアゴラの活動要件

- ✓ 社会とともにあること、社会のためにあること
- ✓ 科学技術に関すること
- ✓ 自発的であること
- ✓ 多様な人とのつながりと対話を大切にすること
- ✓ 公開の場で対話できること

「総合知」とは → <https://www8.cao.go.jp/cstp/sogochi/index.html>



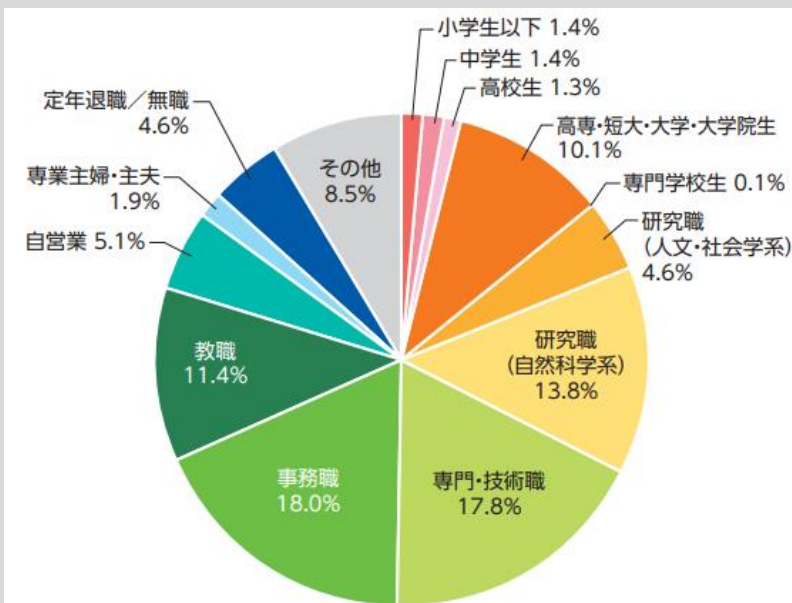
来場者の特性など

オンライン開催と実地開催で来場者の特性は異なります。
3年ぶりの実地開催での来場者割合は予測できていません。

オンライン開催(2021年)



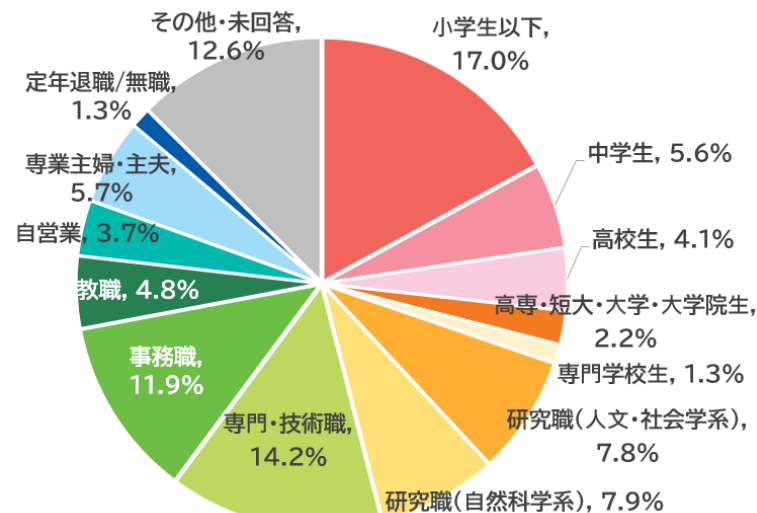
- 研究者・企業の参加は増
- 子供向け企画は集客に苦戦
(子供が長時間飽きずに見られる企画づくりが難)
- 中高生登壇の企画は好評
(平易な言葉で説明する姿勢があるため)



実地開催(2019年)



- ブースは親子連れに人気
(平易な言葉で説明する企画は来場多め)
- 出展者の広報が不十分な会議室でのセッションは集客に苦戦
- 中高生等はグループ来場あり
(先生が興味ある生徒を引率するなど)



応募条件

比較的専門的なことが議論されるセッションから、対話型の展示やワークショップなど、多様な企画で構成されます。サイエンスアゴラの活動要件(本資料4枚目「これまでの活動」参照)と以下に同意し、ご応募ください。**出展料金は無料**です(複数小間出展を除く。また、企画実施に必要な交通費や事務費用などの諸費用は出展者負担です)。

1. 複数人で、本イベントの基本設計に沿った「対話」が**前提の企画を実施**する
2. 企画実施後、ウェブサイト等で公開可能なレポートを運営事務局に提出する(セッションの場合は1時間以内、レポートの内容は21ページをご覧ください)
3. ご自身の企画の事前告知・広報・集客ができる(数ある企画の中では事前に告知をしないと人が集まりません。サイエンスアゴラ全体の広報は運営事務局が行いますが、個別の企画への誘導は行いません ※注目企画、主催者企画を除く)
4. オンライン企画は、運営事務局が指定する時間に、主催者が貸与するWebexのアカウントで実施し、その記録動画公開(YouTube)に同意する(公開期間は最低1年／未成年が関わる企画の記録については相談可)
5. ブースは、少なくとも**11/5[土]・6[日]連続で出展**する(1小間は無料、複数小間希望の場合は1小間追加毎に2万円(税込)をお支払いいただきます。審査の結果、1小間での出展になることもあります)

昨年からの継続・改善点

参加者からの声

- 遠方に住んでいて上京が難しいので、オンライン企画は続けてほしい
- セッション開始後でも申込ができて助かった
- アーカイブで後日視聴できるのが良いが、アップロードが遅い
- 対話の時間で様々な意見を知り、考えを深められた
- 他の企画にも参加したいので1企画の時間は短めだとうれしい
- 多様な内容があるのはいいが、数が多すぎて興味ある企画を見つけにくい

オンライン企画は継続	>>> オンラインで完結する企画は10月に実施(第一部) 申込は、セッション開始から60分後まで受付OK
動画は即アップロード	>>> 企画実施後の自動アップロードを導入
録画での出展枠は廃止	>>> オンライン上での対話が難しいため
対話の時間(非公開)は継続	>>> 対話の時間で本音が聞ける傾向があります セッション本編は60分に。対話の時間は30分
ストーリー性のある企画 配置を強化	>>> 新たな視点を生むゾーニングと企画配置を実施、 有識者による企画の見どころなどを広報

出展の形式

セッションまたはブース、いずれかの形式となります。詳細は次ページ以降で確認できます。セッションのタイムスケジュール、ブースの配置は事務局が決定するため、場所や時間を選ぶことはできません。

セッション出展：60分の本編＋30分の対話の時間で構成（合計90分）

① オンライン	10月実施	登壇者も来場者もオンライン参加。 シンポジウム形式でもワークショップ型でもOK
② 大ステージ (テレコムセンター1階)	11月実施	講演やパネルディスカッションなど、シンポジウム形式の出展向き(出展者が行う広報活動で100名程度の来場が見込める場合のみ応募可能)
③ ミニステージ (テレコムセンター3～5階のいずれか)	11月実施	小規模なトークセッションやワークショップなど、短時間でコミュニケーションを行う出展向き(来場は20名程度までを想定)

ブース出展：搬入は11月3日[祝・木]14時以降、搬出は11月6日[日]18時から

ブースで行う各種展示を想定。テレコムセンタービルでは1小間幅3m×奥行き3m×高さ2mのスペース内で設営。1小間の出展は無料、2小間目以降は1小間あたり2万円(税込)。最大3小間まで申込可能ですが、審査の結果、希望小間数が確保できないこともあります。



各日の企画数(予定)

オンライン開催(10月)と実地開催(11月)の、合計7日間を予定しています(10月は応募状況により延長等の可能性あり)。10月は全企画をYouTubeで配信、11月は主に実地開催ですが、一部企画をYouTubeで配信します。ブースの企画数は目安です。

10月 オンライン開催			11月 前夜祭・実地開催(青海地区)				
オンライン			オンライン	テレコムセンタービル			
10/20[木] 午後のみ	10/21[金] 午後のみ	10/22[土] 午後のみ	11/1[火] 夜間に実施	11/3[祝・木]	11/4[金] 13時～18時	11/5[土] 10時～18時	11/6[日] 10時～18時
セッション (60分以内+ 対話30分) 3 企画 ※応募状況により変動あり	セッション (60分以内+ 対話30分) 3 企画 ※応募状況により変動あり	セッション (60分以内+ 対話30分) 4 企画 ※応募状況により変動あり	セッション (前夜祭) 1 企画 出展者のオンライン登壇を 想定(希望者)	ステージ 設営 (午前) セッション 現場あわせ (午後)	大ステージ (60分以内+ 対話30分) 3 企画 ミニステージ 企画実施なし	大ステージ (60分以内+ 対話30分) 4 企画 ミニステージ (90分以内) ※会場に3箇所 12 企画	大ステージ (60分以内+ 対話30分) 4 企画 ミニステージ (90分以内) ※会場に3箇所 12 企画
ブースなし	ブースなし	ブースなし	ブースなし	ブース 搬入日 (午後)	ブース 12 企画 1階 12企画 3～5階 CLOSE	ブース 90 企画 1階 12企画 3～5階 各26企画	ブース 90 企画 1階 12企画 3～5階 各26企画 搬出18時以降



オンライン開催(セッション)

こんな企画に向いています

- 来場者も巻き込んで活発な意見交換を行いたい(ライブ投票、Q&A機能が使用可能)
- 多くの関係者に参加してほしい(最大1000人の参加者に対応可能・Webexを使用)
- 海外在住や多忙な登壇者でもオンライン上で集まれる
- 地方の学生・研究者が交流・参加できる場にしたい
- 開始時間を選びたい(右の開始時間は目安で、ある程度は自由に選べます。時間延長の場合はご相談ください)
- 部分的に非公開のほうがいい議論を含む(闘病中の当事者などが対象で、ある程度閉じた空間のほうがいい)

第一部(企画の並行実施は現時点では予定していません)

	10/20[木]	10/21[金]	10/22[土]
10時			企画実施 60分以内 交流30分
11時			
12時			
13時	企画実施 60分以内 交流30分	企画実施 60分以内 交流30分	企画実施 60分以内 交流30分
14時			
15時			
16時	企画実施 60分以内 交流30分	企画実施 60分以内 交流30分	企画実施 60分以内 交流30分
17時			
18時			
19時	企画実施 60分以内 交流30分	企画実施 60分以内 交流30分	企画実施 60分以内 交流30分
20時			



前夜祭

前夜祭として「出展者に聞いてみた 企画のココが面白い！」を実施します。出展者の方に、サイエンスアゴラ開催直前の意気込みや裏話などを伺う、ラジオ形式のインタビューをオンライン配信します。

ファシリテーターが、独自の観点から、出展企画の面白さを掘り下げます。前夜祭登壇者は、出展が決まった企画の中から募集します。参加にかける熱い思いを多くの人と共有したい、という方はふるってご応募ください。

※希望者多数の場合、委員会による選考となりますのであらかじめ御了承ください。

※2021年の企画「出展者に聞いてみた 企画のココが面白い！」は以下で公開中

<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2021/session/01-a21.html>

第二部・前夜祭

11/1[火]

10時

11時

12時

13時

14時

15時

16時

17時

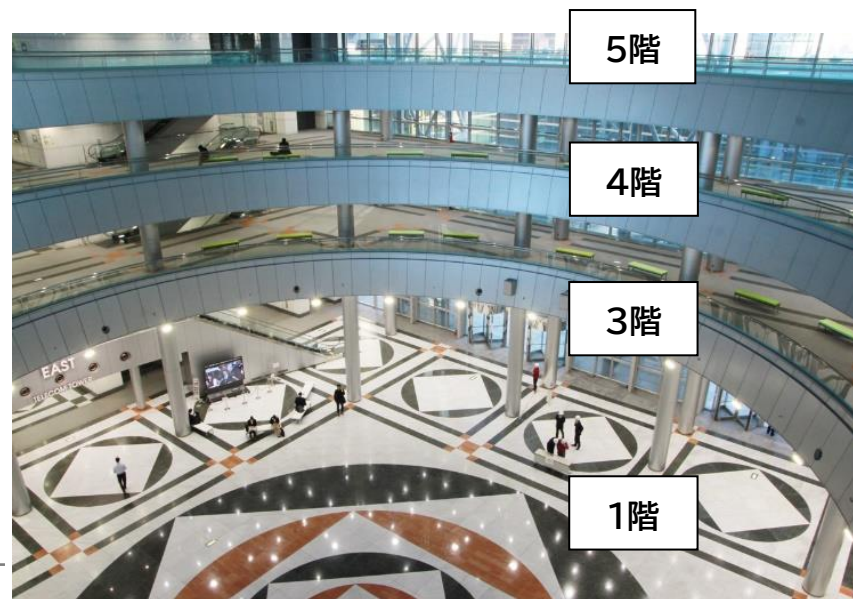
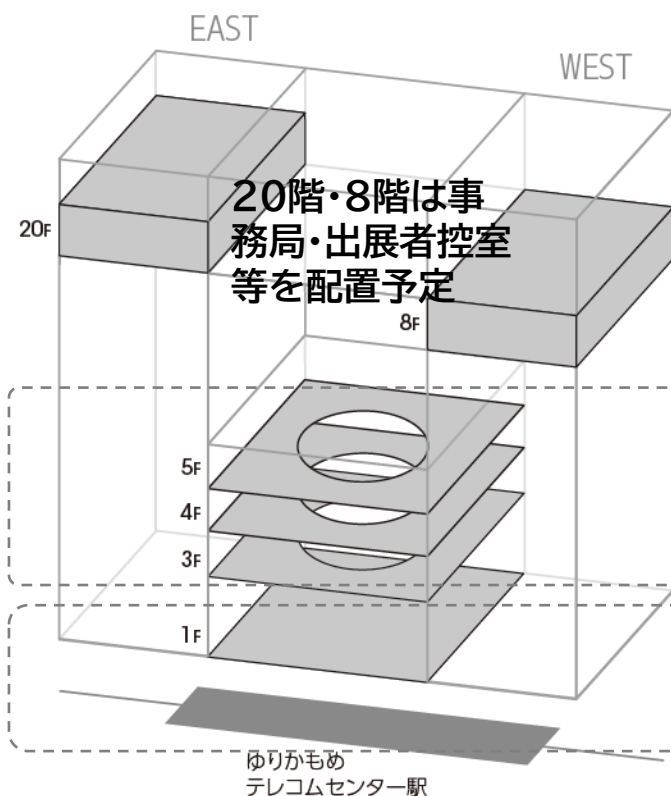
18時

19時

20時

時間未定

実地開催(テレコムセンタービル):全体像



5～3階 ※5～3階は土日2日間のみ公開
ブース、ミニステージ(ミニステージは1フロアのみ配信あり)

1階 ブース、大ステージ(配信あり)、
意見募集ボード、100人論文など特別企画

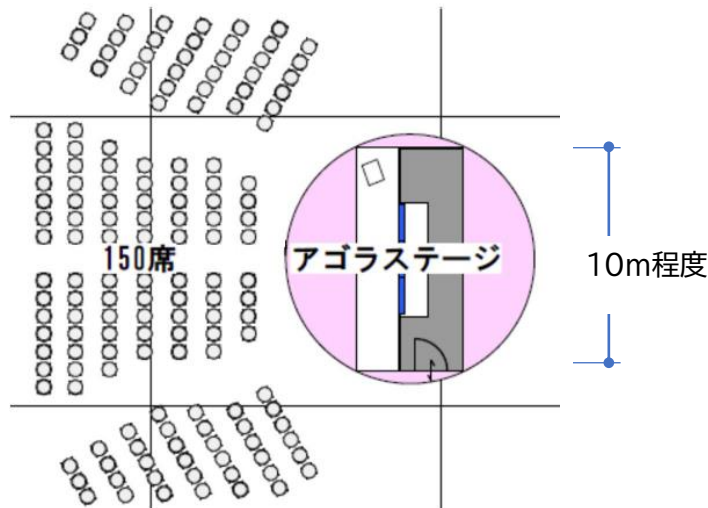
※3日間
連続公開

実地開催(テレコムセンタービル):セッション基本仕様

基本設備にない物品は有料で手配できます。なお、状況により仕様が変更になる場合があります。

大ステージ

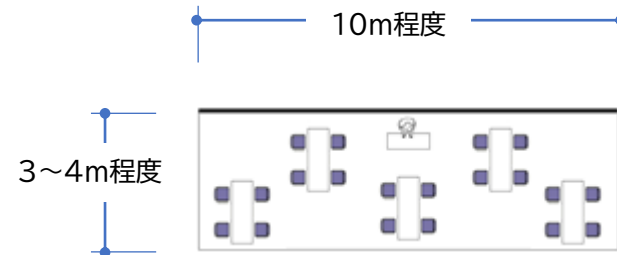
テレコムセンタービル1階に設置される、大きなオープンステージです。



基本設備 スクリーン、マイク、音響、
 演台(机)、イス、コンセント(2口・
 0.5kwまで)

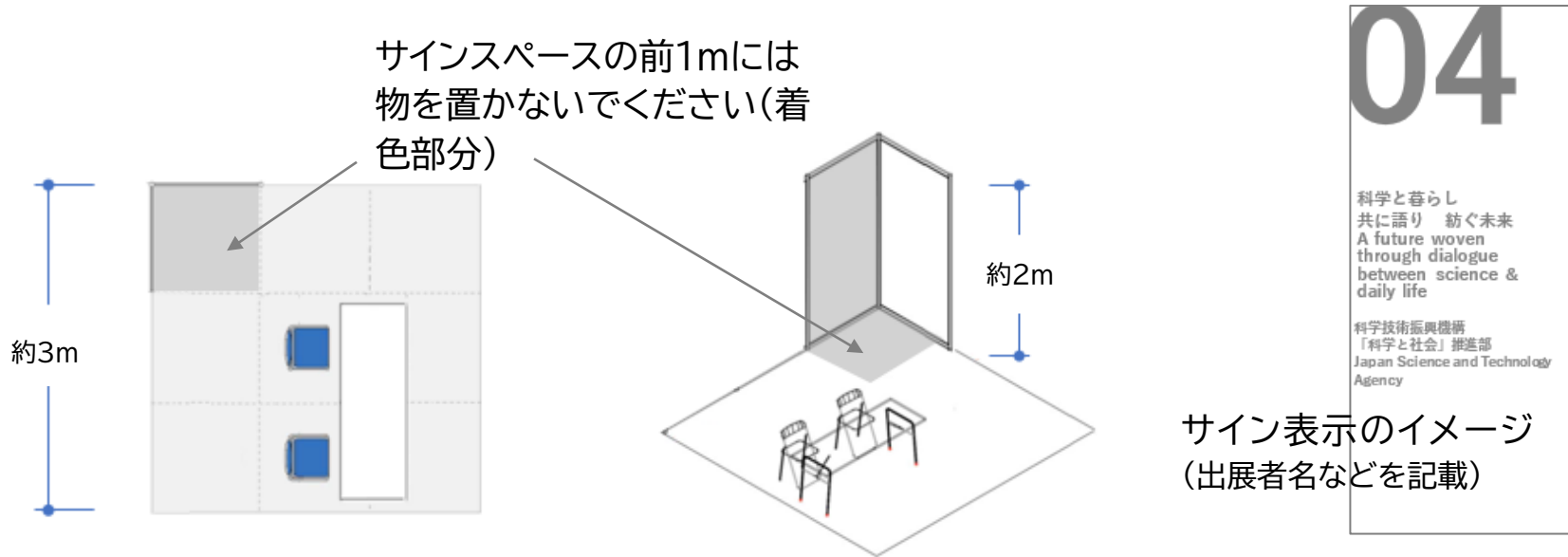
ミニステージ

3～5階に設置される、来場者との距離が近いオープンステージです。机を入れてワークショップスペースとしても利用できます。



基本設備 液晶モニター、
 演台(机)、イス20脚、コンセント
 (2口・0.5kwまで)

実地開催(テレコムセンタービル):ブース基本仕様



基本設備 (1小間)

間仕切り壁面(システムパネルW990×H2100で構成)

壁面への画鋏や釘の使用、現状復帰不可の接着剤等での貼り付けは禁止。パネルの設置に必要なチェーン等のご持参ください

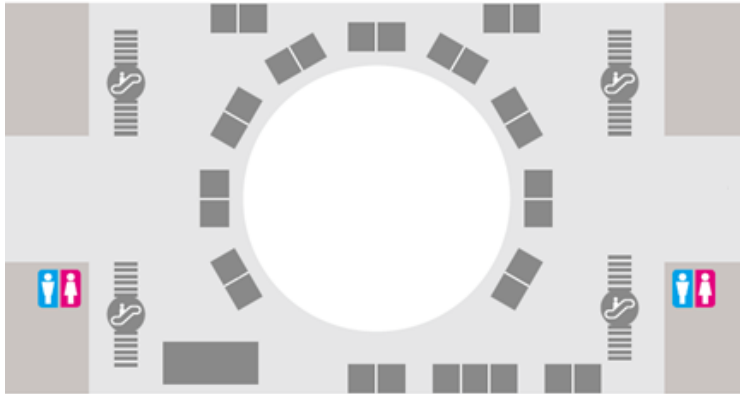
テーブル(W1800×D600×H700)1台、イス 2脚、コンセント(2口・0.5kwまで)

サイン(サインスペース(出展者名などを記載)の前1mには物を置かないでください)

※1小間の場合。複数小間の出展の場合、基本設備の個数は倍になります

出展者側の人数やブース内の滞在人数は社会情勢に応じた制限を設ける予定です。
マスク着用も必須となる見込みなのでご了承ください。

実地開催(テレコムセンタービル):3～5階基本レイアウト



ブースは吹き抜けを取り囲んで1フロアあたり26企画程度を配置予定。

落下物がないようご注意ください。手すりに物をかけることはできません。また、手すりや、ブースの外側の壁にポスター等を掲示することはできません。

※図は公募時の基本配置案で状況により変更となります。5階は壁に沿ってブースが並ぶレイアウトを予定。

各階にミニステージを設置(設置場所は未定)

公募によるワークショップ企画のほか、日本科学未来館の科学コミュニケーションOB・OG等の科学コミュニケーションによるセッション実施を検討中。関連分野の出展者に登壇を依頼する場合は、事務局からお声がけします。

●科学コミュニケーション企画@ミニステージ(案)

科学コミュニケーターによるミニトークに続いて、出展者の日頃の活動などを聞き出すインタビュー企画を実施。トピックは「動物・生き物」「地域科学館」「ロボット」「VR」など。

以下の構成を想定

- 20～30分: コミュニケーターによるトークショー
- 20～30分: トークショーの内容に関連する出展者へのインタビュー

1階はレイアウト未定で、総合受付、大ステージでのセッション企画、特別注目のブース企画を配置します。ブースは11月4日[金]または5日[土]から、6日[日]まで連続で出展できる方のみが応募できます。初日は一般来場者が少なめなことにご注意ください(就学児童は学校の授業があり来場できません)。

実地開催(テレコムセンタービル):11/5～6タイムテーブル

11/4[金]は午後から、1階の大ステージと、1階に配置する特別注目ブース(数企画のみ)オープンします。3～5階での企画は実施しない予定なのでご注意ください。

第二部(大ステージ、ミニステージ)

	1階大ステージ (オンライン配信あり)	3階ミニステージ	4階ミニステージ	5階ミニステージ (オンライン配信あり)
10時				
11時	企画実施(60分以内) 交流時間(30分)	企画実施 (対話込み90分以内)	企画実施 (対話込み90分以内)	企画実施 (対話込み90分以内)
12時				
13時	企画実施(60分以内) 交流時間(30分)	企画実施 (対話込み90分以内)	企画実施 (対話込み90分以内)	企画実施 (対話込み90分以内)
14時				
15時	企画実施(60分以内) 交流時間(30分)	企画実施 (対話込み90分以内)	企画実施 (対話込み90分以内)	企画実施 (対話込み90分以内)
16時				
17時	企画実施(60分以内) 交流時間(30分)	企画実施 (対話込み90分以内)	企画実施 (対話込み90分以内)	企画実施 (対話込み90分以内)

企画実施後の対話の時間について

- 各企画の実施(60分以内)後に、30分の対話の時間(参加者間の対話・ネットワーキング)時間を設定(企画実施の延長時間ではないことに注意)
- 対話の時間は「ここだけ」の時間。アーカイブされないので、自由な発言を引き出せるとの感想が多く寄せられています

最大60分の企画実施
(動画は当日公開)

+

30分の対話の時間
(動画はリアルタイムのみ
公開、その後は非公開)

企画実施と対話の時間はセットで考えてください

- 企画実施時間は、来場者の参加のしやすさを考慮して60分になっているのでご注意ください
- 対話の時間を含めた企画内容が審査対象です。対話のない企画はサイエンスアゴラに出展できません
- 対話の時間のファシリテーターは各企画主催者が務めてください。裏話の紹介や、以下のような呼びかけを行うと話しやすい雰囲気をつくれます
 - 本編の質疑応答で質問しにくかったことがあればぜひ聞かせてください
 - この部分は録画非公開なので安心してお話してください

企画のジャンルについて

来場者が興味のあるトピックを見つけやすくするために、企画は3種のジャンル分けを行います。応募の際にどのジャンルを意識するかをお知らせください。会場やホームページ上での企画分類に利用します。

ジャンルA

立場をまぜて
みんなが幸せになれる
未来社会をデザインする

トピック

- 分野を超えてつくり出す、未来のための科学技術
- 自分にはない意見やものの見方を取り入れた、みんなが暮らしやすい社会づくり
- 災害を予防する、災害からの復興(新型コロナウイルスなども含む)

ジャンルB

知恵をまぜて
SDGs・地域課題を
解決する

トピック

- ダイバーシティ・インクルーシブネス
- 資源・環境・エネルギー
- 科学技術で解決できるかもしれない地域の課題

ジャンルC

楽しい! をまぜて
新たな学びに
踏み出す

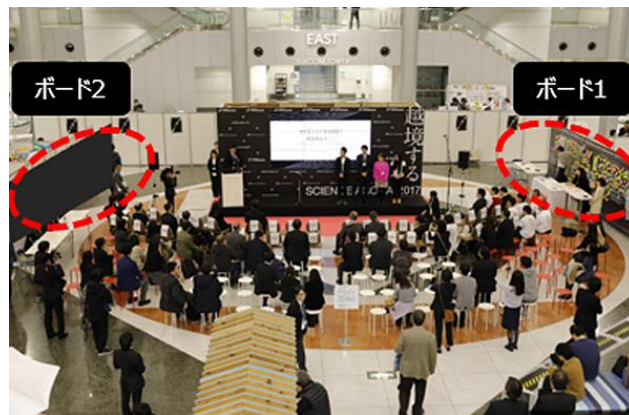
トピック

- 子供も大人も楽しい、未来社会を考えるための基礎知識
- 科学や技術に関する学習・体験・ものづくり
- 文理選択や未来の仕事

オピニオンボード(意見募集ボード)

参加者全員で考えたいことを3つの「問い」として会場に掲げ、来場者からのコメントを募ります。問いは、出展が決まった企画の内容をふまえて事務局が設定し、すべての企画はいずれかの問いに紐付けられます。

サイエンスアゴラ2017以降、会場に設置する「意見募集ボード」を通じて、新しいロゴに対する意見や、科学技術に対する期待などの声を集めてきました(写真左の、ボード1がオピニオンボード、ボード2がレポートボード)。



3つの問いの他に「なにかと組み合わせたら面白そうな企画はあった？ おすすめの企画や、これとこれをまぜてみたい！と思ったことを教えて」という質問も設けます。

レポートボード(意見募集ボード)

セッションについては、企画内で話し合われた内容(レポート)を貼り込むボードを会場に設置します(オンライン企画含む)。オンライン開催、実地開催ともに、企画実施後1時間以内の提出をお願いしています。セッションに参加できなかった来場者も、付箋紙で意見を書き込めるよう検討しています。

時間が合わず
セッションに参加
しなかった人にも
内容を伝えら
れます

注目企画は
グラフィックレ
コーディング
を実施



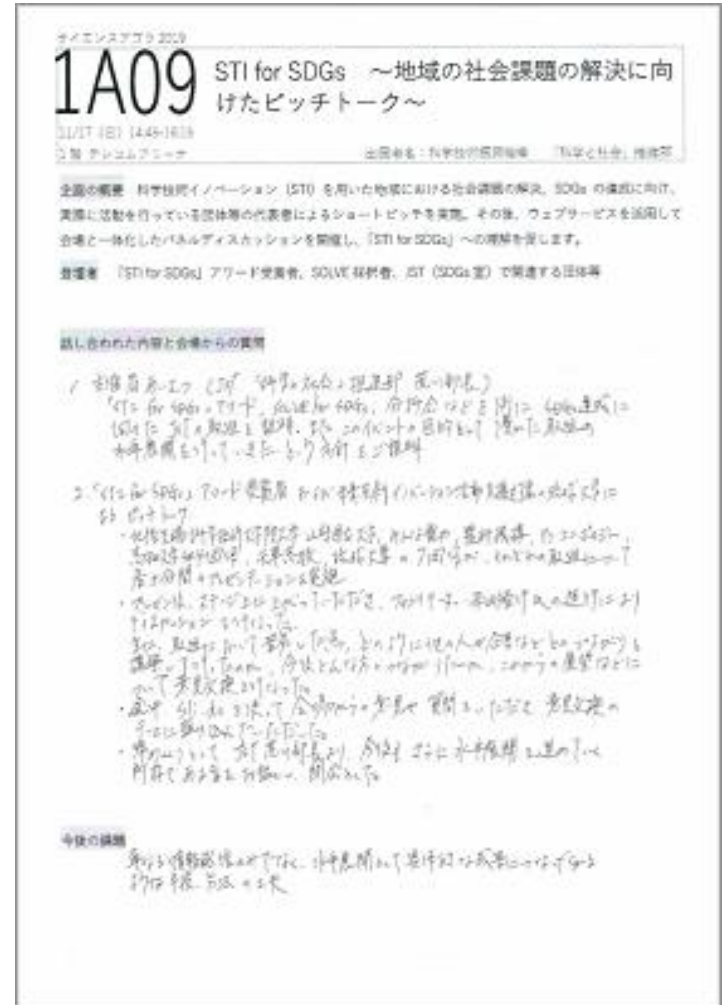
各レポートは
後日Webに
も掲載！
※提出必須

レポート提出(セッション、ブース共通)

実施後に簡単な開催報告をご提出ください。2022年にご報告いただく内容は、セッション、ブース、ともに以下を想定しています。

- 1) 話し合った未来像
- 2) 対話を含め、企画内で議論した際に出た意見、論点
- 3) キーワード

セッションレポートは来場者からのコメントを募るため実施後1時間以内に提出いただきます。右の図は2019年に会場に貼り出したセッションレポートです。ブースは後日提出です。





出展までの流れ

★は出展者側での準備作業です

- 6/1[水]● **出展企画・協賛企業の募集開始** (協賛制度については●ページをご覧ください)
★内容の方向性検討、登壇者への打診、必要経費の確保、応募申請書の提出
- 6/30[木]● **応募〆切**
- 7月末～8月上旬● **サイエンスアゴラ2022推進委員会の審査を経た結果通知**
★登壇者、協力者への連絡
- 8月末● **公開情報の登録** ※以降のスケジュールは変更になる場合があります
★公開情報登録(英語含む)、出展同意書の登録
- 9月下旬● **出展者マニュアル掲載、ウェブサイトオープン**
★マニュアルのダウンロードと内容の確認、広報計画の実施
- 10月上旬● **サイエンスアゴラの事前登録開始**
- 10/20[木]● **オンライン開催(10企画予定)**
★ライブ配信は台本の作成、リハーサル等
- 22[土]
- 11/1[火]● **前夜祭(1企画予定 ※3部構成等の可能性あり)**
- 3[祝・木]● **搬入**
- 4[金]● **実地開催(青海地区・125企画予定)**
★セッション企画は実施内容をレポートをまとめて事務局に提出のこと
- 6[日]

会期後は運営事務局からの
アンケートなどにご協力ください

審査の観点

- ① 今年のテーマをふまえた企画内容か
- ② 出展者が来場者に提供できるもの、来場者との対話から出展者が得たいものが考えられているか
- ③ 時間配分や配付資料等が適切か(関心度が異なる人への配慮も考えられているか)
- ④ 対話を促し、気づきを集めるための工夫がなされているか
- ⑤ 参加見込みのターゲット層への広報計画が妥当であるか

応募企画は、応募フォームをもとに、上記に基づき、サイエンスアゴラ2022推進委員会が審査します。採択通知はメールで行い、委員会からのコメントがある場合は併せてお知らせします。

審査の観点が充実している企画には注目企画としての実施をお願いする場合があります。注目企画に選ばれると、公式ウェブサイト等で優先的な紹介が行われます。

サイエンスアゴラ2022推進委員会

※JST以外は50音順、敬称略



稲見昌彦(東京大学 先端科学技術
研究センター 教授、JST ERATO稲
見自在化身体プロジェクト 研究総括)



大島まり(東京大学大学院情報学
環／生産技術研究所 教授、次世代
育成オフィス(ONG)室長)



上村遥子(SUNDRED株式会社
チーフエバンジェリスト／コミュニ
ティデザイナー／パートナー)



サリー楓(株式会社日建設計NAD
室 コンサルタント)



新熊亮一(芝浦工業大学 工学部
情報工学科 教授、MEIS学会代表)



タカハシショウコ(インキュビオ
ン株式会社 CEO)



本多達也(富士通株式会社 未来社
会&テクノロジー本部 Antennaプ
ロジェクトリーダー)



梶太一(同志社大学 ハリス理化学
研究所 専任研究所員(助教))



塩崎正晴(JST
理事)



荒川敦史(JST
「科学と社会」推
進部 部長)



森田由子(JST日本科学
未来館事業部 経営戦略室
科学コミュニケーション専
門主任)

応募の手順

Web上の「応募フォーム」で受け付けます。サイエンスアゴラ公式サイト
<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/> から接続できます。

1) 応募のためのログインIDの取得

今後の事務手続きで連絡窓口になる方がご登録ください(採択通知ほか各種連絡は、このIDのメールアドレスにお送りします)。2015年以降にサイエンスアゴラへの出展にご応募いただいた方は、同じIDを引き続きご利用いただけます。IDが不明の方は新たに取得してください。**複数の企画を応募の場合は、企画ごとに異なるIDが必要です**

例) ブースとセッションを申し込む場合 → 2つのIDで別々に応募する

2) 応募の確定

「マイページ」で必要事項を記入したら「送信」ボタンを押して応募を確定してください。事前に記載内容を検討し、保存しておくことを推奨します。応募確定後も、応募受付締め切り日時までは、入力した情報の確認・修正ができますが、システムの仕様上、締切日以降は修正も閲覧もできません。送信内容はご自身で控えを取り、管理してください。

企画タイトル・出展者名の表記ルール

サイエンスアゴラでは以下のルールに沿って企画タイトル等を表します。

- ルール(1) 法人格(国立大学法人、株式会社、特定非営利活動法人など)はすべて省略
- ルール(2) 法人名・機関名と部署名の間にはスペースを挿入。部署名が複数続く場合は、見やすさの観点から適宜、スペースを挿入
- ルール(3) 記号(丸括弧() かぎ括弧「」 中点・句点。読点、感嘆符！ 疑問符？ チルダ～ など)はすべて全角で記入
- ルール(4) 企画タイトルにサブタイトルがある場合の表記は以下の通りとする
主タイトル 半角スペース チルダ サブタイトル チルダ
例)光の色彩 ～視覚で楽しむ炎色反応～
- ルール(5) ① タイトル全体がかぎ括弧「」などで囲まれている場合は、とる
② 一重括弧なしに二重括弧が使われている場合は、一重括弧に変更
③ 複数の出展者が同列で列挙する場合は、読点で区切る
④ 感嘆符、疑問符の後ろは、原則、スペースを空ける

応募フォームへの記入

応募フォームは2時間で自動的にログアウトされるため以下の内容をあらかじめ作成しておくことをお勧めします。応募フォーム内で改行したいときはShift+Enterをお試しください。

No	項目	内容	
1	出展者の名称	出展者の名称をご記入ください(全角25字以内、法人格は省略)	テキスト入力
2	企画タイトル	企画タイトルをご記入ください(全角25字以内、全体を「」で囲わないこと)	テキスト入力
3	出展者の属性	出展者の属性を選択肢から1つ選んでください。該当がない場合は「その他」を選択してください	☐ 大学・研究機関 ☐ 学校関係(小中高等) ☐ 科学館／博物館 ☐ メディア ☐ 企業 ☐ 行政機関 ☐ NPO／NGO等 ☐ 組織ではない(有志の集まりなど) ☐ その他
4	代表者氏名と所属	採否通知等の宛先となる方の氏名とご所属を、氏名(所属・法人格は省略)の形式でご記入ください	テキスト入力 入力例) 理科次郎(××機構○○部)



No	項目	内容
5	出展の実績	サイエンスアゴラでの企画提供の実績を選択肢から選んでください ☐ 初めて出展する ☐ 一度だけ出展したことがある ☐ 複数回の出展経験がある
6	出展の形式	出展の形式と日程を選択肢から選んでください。要望が必ず通るわけではありません。 ※セッション日時の希望があれば特記事項欄に記載してください。 ※2小間以上の出展は、追加1小間につき2万円(税込)をお支払いいただきます。 ☐ オンライン:10月20日(金)~22日(土)のいずれか ☐ テレコムセンターの大ステージ:11月4日(金)~6日(日)のいずれか ☐ テレコムセンターミニステージ:11月5日(土)または6日(日) ☐ 1小間で3日間(金土日) ☐ 1小間で土日2日間 ☐ 複数小間で3日間(金土日)※有料 ☐ 複数小間で土日2日間※有料
7	対話の主な対象	特に重視するコミュニケーションの対象を、3つ以内で選択してください ☐ 小学生以下 ☐ 中学生、高校生 ☐ 大学生、大学院生 ☐ 高校生以下の子供を持つ親 ☐ 教育関係者 ☐ 立法・行政関係者 ☐ 研究者、専門職・技術者 ☐ メディア関係者 ☐ 企業関係者 ☐ 消費者



No	項目	内容	
8	テーマとの親和性①	【こえる(超える・越える)】について:企画の内容は、どのような挑戦にかかわるものですか(全角300文字以内)	テキスト入力 記入例) ××の研究から商品化にむけた、分野を超えた共創に挑戦したい
9	テーマとの親和性②	【まぜる】について:企画の内容に、以下の要素がどのように反映されていますか(全角300文字以内) ・(アイデア、ものの見方などを)取り入れる ・(複数の技術や分野等を)組み合わせたり織り混ぜたりする ・(より良い組み合わせを求めて)調合したりブレンドしたりする ・(思想や異なる種のを)融合する	テキスト入力 記入例) 現在××プロジェクトが取り組んでいる□□について、△△と組み合わせた新たな展開を検討している。ここに、実用化される際にユーザーとなる高校生を交えて～～～
10	テーマとの親和性③	【つくりだそう】について:この企画を通じて来場者は何が得られるか、出展者が得たい成果やつくりだそうとしているものは何か、を記載してください(全角300文字以内)	テキスト入力 記入例) 来場者には××を用いた新たな未来像や、明日誰かに話したくなる話題を提供する。出展者としては～～～
11	ジャンル	3つのジャンルのどれに該当するか選んでください	○未来社会をデザインする ○SDGs・地域課題を解決する ○新たな学びに踏み出す



No	項目	内容	
12	登壇者 や説明 要員	企画実施時の登壇者・ブースでの説明 要因を記載してください(全角300文字 以内)	テキスト入力 記入例) ●登壇者: アゴラ太郎(□□大学××学科) 科学花子(△△所長) ●司会者: 超越リカ(××機構○○部)
13	準備の 態勢	準備に関わる人数を教えてください	テキスト入力 記入例) ●5名(主担当2名、協力者3名)
14	企画進 行の段 取り①	セッションの場合は60分以内の企画で どう進行するか、登壇者の持ち時間や 来場者に共有する資料などを具体的に 記載してください。ブースの場合は、持 ち込むものや資料、話の進め方(来場者 の参加方法)、感染防止対策を記入して ください(全角300文字以内)	テキスト入力 入力例) 開催挨拶、企画内容の説明5分 冒頭の参加者アンケート5分 登壇者からの話題提供5分×3人 未来像に対するディスカッション15分 議論後の参加者アンケート5分
15	企画進 行の段 取り②	セッションの場合は企画終了後30分の 対話の時間で、ブースの場合は説明の 際に、どのような意見を来場者から聞 きたいか、具体的に記載してください (全角300文字以内)	テキスト入力 入力例) 来場者が発言しやすいよう、意見では なく感想を求める。感想が出なかった 場合は登壇者が～～



No	項目	内容	
16	広報計画	いつ、どのようなタイミングで、どんな手段(チラシ、SNS、ホームページ、メルマガなど)で広報を行うか、具体的な計画を記載してください(全角300文字以内)	テキスト入力
17	ウェビナーアカウント	企画実施とリハーサルの際に、運営事務局から無料で貸与するWebexアカウントを利用しますか	○事務局アカウントを利用する ○自分のアカウントを利用したい(実施後1時間以内に来場者属性等のデータ提出を確約いただける場合のみ) ○ブース出展のため不要
18	英語対応	英語対応が可能ですか(英語での企画説明や説明資料の日英併記など、何らかの工夫を推奨します)	○通訳者手配・資料の日英並記が可能 ○資料であれば日英並記が可能 ○対応できない
19	特記事項	セッション実施の希望日時や、初日も含めてブース出展したいなど、事務局に伝えたいことをご記入ください(全角300文字以内)	テキスト入力
20	開催形式変更の場合	新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインに切り替える場合の意向をお知らせください	○今回応募の内容に沿ったオンラインセッションを実施したい ○臨時に企画される主催者のオンラインセッションで、登壇者として短時間参加したい ○出展を辞退する

連携企画、誘致企画など(2022年5月31日現在)

JSTサイエンスアゴラ事務局では、サイエンスアゴラ2022推進委員や科学コミュニケーターによる、出展者へのインタビュー企画などを検討中です。出展者への協力をお願いする場合は、詳細が決まり次第、企画窓口の方へのメール等でお知らせします。

その他、以下の企画を予定しています。

●日本工学アカデミー(EAJ)とのコラボによる科学者×SDGs企画【連携企画】

EAJは、日本の工学技術の発展を期して、産・官・学の垣根をこえた研究者、科学者、技術者で組織されています。ノーベル賞を受賞した研究者も参加し、科学技術でSDGsにどのような貢献ができるのかを考えるトークセッションを予定しています。会期中、あなたの企画にノーベル賞受賞者が訪れるかも？

●2045/55将来社会ビジョン【連携企画】

科学技術・学術政策研究所(NISTEP)が実施しているフォーサイト活動(科学技術予測等)の一環として、サイエンスアゴラ参加者も含む市民・若者やアカデミア・産業界等の多様な参加者が、望ましい将来社会の姿・方向性について議論するワークショップ等を開催。議論結果はフォーサイト活動に反映される。

●お台場100人論文【誘致企画】

匿名で自分の関心事や研究テーマを掲示し、質問、コメント、アドバイスなどを付箋紙に記入しあう「京大100人論文」のサイエンスアゴラ版です。2019年の実施では、その後の新たな活動に結びついた例があります。出展者の参加によって様々な意見・知見がまざり、これまでにない取り組みが生まれることを歓迎します。

●IVRC2022(Interverse Virtual Reality Challenge)【誘致企画】

サイエンスアゴラ2019から併催しているIVRCは、リアルとバーチャルが融合(Interverse)する時代に向けた、様々な視点からの、学生たちのチャレンジを応援するコンテスト。予選を勝ち抜いた新しい時代のVRを体感できます。

●二次元バーコードでサイバーフィジカルツアー【事務局コラボ企画】

産総研人工知能技術コンソーシアムによるサイバーフィジカル体験企画。自分が巡ったブースをWeb上のマップで確認でき、来場者ごとにフィジカルの体験とサイバーの体験に応じて内容が変わるコンテンツが提供されます。希望する出展者は時間ごとの訪問者の変化やアンケート結果をWebで見ることができます。

●国際科学オリンピック企画、ジュニアドクター育成塾によるSTEAM企画等

●第4回 輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)表彰式&トークセッション

参考情報: 昨年(サイエンスアゴラ2021)の 合計視聴数・参加者数(2021/11/9 10:00時点 ※登壇者、スタッフ含まず)

事前登録数(のべ) **5,202**

Zoom参加者数 **4,488**

視聴合計(Zoom + YouTube) 約 **16,500**

2021年は11月末(アーカイブ半数程度)でのYouTubeユニーク視聴者が5,199人、

独自配信企画を考慮すると2021年の推定来場者 **1万人超**

2021の推定来場者1万600人程度 → 前年同様の来場者をキープ
2022年3月上旬での視聴合計は16,500 → 26,000程度まで増加。昨年同様の視聴数をキープ

来場(出席)率 **86%** オンラインセミナーの平均出席率は30～50%程度、2021年の出席率は45%から86%に大幅改善 ※リアルタイム参加をZoomに限定したため(アーカイブはYouTubeで公開)

参考情報：昨年のサイエンスアゴラ出展者の声(抜粋1)

- 対話を重視した企画にするため、オンラインでのグループディスカッションに挑戦するなど、新しい取組のきっかけになった。
- セッション後の対話の時間について疑問・不安を感じていたが、実際やってみると悪くなく、30分あっという間だった。視聴者からも、非常に良かったという感想をいただいた。
- 講演者、参加者、企画者の3者で対話することができた。講演者から深い議論ができたとのコメントがあり、研究者にとっても一般の人から多くのフィードバックを得たことで、新たな発見があったと思われる。
- 参加者から応援のメッセージをいただけたり、疑問点を一緒に解消する場を共有できたりと、良い体験となった。
- 思ってもみなかった分野の方々との新たな繋がりが生まれ、今後の活動の幅、視野が広がったと思う。
- 普段は科学畑の人に囲まれているため、社会とズレた感覚があっても気づけないが、市民の方の反応を通して、そのズレに気づくことができた。この気づきは、社会との関わり方を見直すきっかけになりそう。

参考情報：昨年のサイエンスアゴラ出展者の声(抜粋2)

- 異分野との方との意見交換を行う良い機会となった。またこういった方々にどのように我々が伝えていくべきかを考える機会となった。
- 市民の方が何を不安に思っているか、どのような点に注目しているのかを知ることができた。また来場者に対しては、知識欲を満たし、ビジネスに役立つ情報を提供できたと認識している。
- 幅広い層に発信することができた。また、質疑を通して理解を深め、パネルディスカッションでは若手研究者の生の声を届けて、研究のリアルを伝えることができたと考えている。
- 前夜祭でのラジオ配信では、推進委員の方々から、5分という短い時間ながら企画を改善するヒントとなるアイデアをいただくことができ、大変学びの多い時間となった。
- 高校生である自分たちが、地元の産業に関わっている方々と直接つながったり、そういった方々と大学の先生方の橋渡しができたことは大きな成果だと思う。今後も、こういった連携を通じて地元地域の発展につながるような研究や活動を続けたい。
- オンライン開催は、違う地域・国、幅広い年代の参加者との交流が活発になるため、継続して取り入れてほしい。

参考情報: 求める企画

科学技術の面白さ・深さ、ご自身の研究の内容を伝えて来場者の興味関心を喚起する企画や、科学技術をめぐる様々な課題を通じ今後の社会の未来像について来場者と対話できる企画を求めます。

来場者にとってのサイエンスアゴラは、普段出会えない研究者や専門家の考えを知り、共に未来を考える場です。出展される方は、科学と社会との関わりについて来場者が考えて意見を述べられるよう、手助けをお願いします。

サイエンスアゴラは、多様な価値観を認め合いながら、皆が共に考え、未来社会を創り出す「共創」や「総合知」を重視します。あらゆる立場の人たちが対話・協働し、その結果を政策形成や知識創造など、これからの未来をつくる活動へ結びつける「共創」に関心をお持ちの方は、ぜひサイエンスアゴラにご参加ください。

共創の参考事例

『サイエンスインパクトラボ2021報告書』

<https://www.jst.go.jp/sis/co-creation/items/sil2021.pdf>



『課題解決の対話から2050年に向けてつむぐ「来るだろう未来」から「つくりたい未来」へ』

https://www.jst.go.jp/sis/co-creation/items/create_future2021.pdf



協賛企業の募集について

サイエンスアゴラの活動に共感し、サポートしてくださる協賛企業を募っています。協賛いただいた企業・団体には優先枠がございます。詳細は決定次第、サイエンスアゴラの公式サイトでご案内します。

<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/>



LOGO CONCEPT

発見やひらめきを感じた瞬間、人は大きな喜びを感じます。
その気持ちが跳ね上がる瞬間を捉え、ロゴにしました。
一つの要素が重なり、紡がれていく様子を表しており、
多数の要素が集まることで大きく広がりを見せる場を象徴します。
未来へとさらに発展していく様子を未完成な形で表し、
人の対話とひらめきが重なりあい、未来を創る大きな力を表現します。



皆さまからの
出展のご応募、
協賛への
お問い合わせを
お待ちしております